



会員寄稿

## 知恵と実践から主体的に未来を拓く教育の推進

— 仲間とともに、地域とともに —

校長 三好 浩行

今年度、大洲高校3年目となりました校長の三好浩行です。私事ですが、校長としての最後の一年を、伝統ある大洲高校で送ることができることに、感謝の気持ちでいっぱいです。今年度の重点努力目標は、昨年度と同じ「知恵と実践から主体的に未来を拓く教育の推進—仲間とともに、地域とともに—」としております。仲間と切磋琢磨し、地域との連携を大切にしながら、地域を愛する心を育み、主体的に考え行動する生徒を育成することを目指しています。

入学式の時に、ホンダの創業者である本田宗一郎さんの「成功は99%の失敗に支えられた1%である」という言葉を紹介しました。本田さんはさらに、「失敗が人間を成長させると、私は考えている。失敗のない人なんて、本当に気の毒に思う」と述べられています。この言葉は、3学期の終業式で紹介したヤクルトスワローズを3度日本一に導いた、野村克也監督の「失敗と書いて成長と読む」の言葉に通ずるものがあるように思います。人は、成功を収めている人を見ると、あの人は素晴らしい能力を持っているから成功したと考える傾向があります。しかしながら、二人の言葉から成功を収めた人の多くは、数々の失敗を繰り返し、その失敗から多くのことを学び、成功につなげていることが分かります。テレビドラマの「ドクターX-外科医・大門未知子-」の主人公、大門未知子さんのきめゼリフは「私失敗しないので」です。ドラマの世界ではありますが、「私失敗しないので」と言えるようになるまでに、多くの失敗を乗り越えてきたのだらうと想像できます。

高校生の多くは、学習活動や部活動、学校行事など様々な活動をする中で、思い悩むことがあるだらうと思います。保護者の立場としては、どのように対応したらいいのか戸惑う場面も出てくるのではないかと思います。思い悩んでいるときには、自分のいいところが見えなくなっていると思います。生徒が悩んでいるときには、教員や保護者が、生徒のいいところを伝え励ますことで、生徒の気持ちは、ずいぶんと楽になるのではないかと思います。学校と保護者が連携を取りながら、生徒の成長をしっかりと支えることが大切だと考えています。高校生活の中で、新たな自分を発見することもあるだらうと思います。自分をいいところが見つかりば、高校卒業後の進路もおのずと見えてくるだらうと思います。生徒一人一人が生き生きと活動し、大洲高校を選んで本当によかったと思えるよう教職員一同全力を注ぎますので御理解と御協力をお願いいたします。

